



VIAGGIO IN ITALY



大森愛子のイタリア紀行
AIKO OMORI PRESENTI

ソムリエ。ワインスクール講師。
世界15カ国以上を旅したのち、何だか面白そうなイタリアに移住。
現在、定職・定住地なし。強運のみを頼りに移動生活を続ける。
旅の最大の目的は、それぞれの国の人人が何を大切にしているのか
を知ること。

2015 17 7.20

チャンスは人を泥棒にする

部屋を出てから自転車に乗るまで、私が使う鍵は5本。

順序としては、シェアルームに住んでいるため、まず個人用の寝室の鍵を閉め、部屋の鍵を閉める。階段を下りて自転車置き場の鍵を開け、ここまでで3本です、あとは自転車の鍵を開け、最後に表玄関の鍵を閉めて完了。

毎朝たくさんの鍵が必要なように感じますが、これは周りに比べると決して多い数ではありません。

イタリアのマンションやホテルの中には、表門の鍵、表玄関の鍵、エレベーターを使うための鍵、自分の部屋がある階に入るための鍵、部屋の鍵など、自室にたどり着くまでうんざりするほどたくさんの鍵を必要とする住居があり、そういう建物に暮らす住民は、いつもポケットの中で重そうな鍵をジャラジャラと鳴らしています。



普段持ち歩いている鍵束



地下の自転車置き場

なぜ扉を一枚開ける毎にいちいち鍵を必要とする住居が良しとされているのか理解に苦しみますが、それもこれも泥棒に入られたとき、貴重品のある部屋まで侵入される時間を少しでも稼ぐため。首尾よく部屋に侵入できた泥棒も、キッチンやバスルームの扉、タンスやクローゼット、引き出しに至るまですべて鍵がかかっていて開かないとなれば、そう簡単にお宝を手に入れることはできません。しかし住人としては、まるで金庫の中で暮らしているよう。海外では珍しくもないのでしょうか、彼らにはただの仕切りとも言える障子が扉の役割を果たしている平和な国があるなんて想像もつかないでしょうね。

イタリアで盗難に遭った場合、悪いのはもちろん盗人ですが、みすみす盗まれるような隙があった方もまた悪いと言う考え方があり、被害者はマヌケと陰口を叩かれる事はあっても、あまり同情はされません。「チャンスは人を泥棒にする」という諺のとおり、他人に物を盗ませる隙を作らないよう気をつけるのは当然のことなのです。



開けても閉めない、というルール

現在 私が借りている部屋に備え付けられているタンスやクローゼットも全て鍵を使って開閉するタイプ。取っ手がないため、鍵穴に鍵を入れて回し、そのまま鍵を引っ張って扉を開ける仕組みになっています。しかしあこれまでの住民が皆いちいちタンスにまで鍵をかける几帳面な人ばかりだったはずもなく、いつの間にかその存在は忘れられ、私が越してきたときは当然のように家具の鍵は失われていました。

今や取っ手も鍵もない。

つまり一度閉めると開けられないわけで、ここに難攻不落の引き出しが生まれました。

引っ越してきた当初、すべて半開きになっている引き出しや扉を見て、それはもう途方に暮れましたよ。ぴっちり閉めるともう開けられないのですから。

前の住民に収納庫は使えないのですかと尋ねてみると、閉めると開かないだけで閉めなければ使えるでしょとの応え。なるほど。



室内のバスルームやキッチンの扉にも
それぞれ鍵が。



タンスは取っ手ではなく
鍵をひっかけて開けます

この部屋のルールは、

クローゼットやタンスはぴっちりと閉めず、必ず少し開けておくこと。

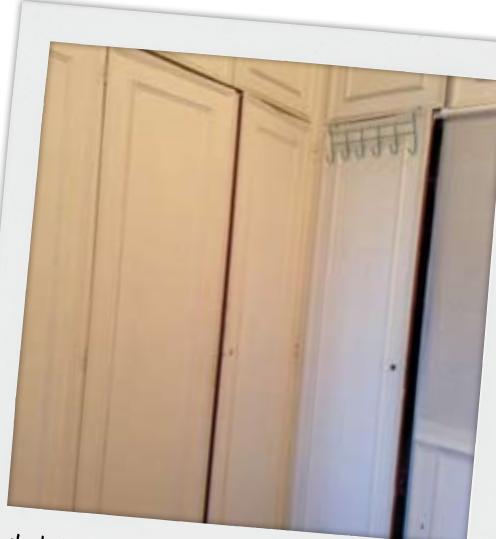
ローマに移住して世の中には実に様々な決まりがあるものだなあと感心したのですが、これがなかなか難しい。長年慣れ親しんでいた癖はなかなか抜けず、半開きのタンスやクローゼットの扉を見ると、ついばしんと閉めてしまうのです。

そうなると次に開けるときは一苦労。

まず何か細い物を探ってきて引き出しの間に差し込んで隙間を作り、出来た空間に定規か何か（しかしそういったものは引き出しの中に入れているので大抵見当たらぬ）を突っ込んで引っ張るという、もういっそ荷物は土の中に埋めて毎回掘り出したほうが楽なんじゃないかと思うほどの労力を要する始末。



見てください、このちょっとずつ開いたままの
タンス…。ああ…。



もちろんクローゼットも
少し開けておくのが правило

そうして何度か痛い目を見たおかげで、近ごろはやっとクローゼットや引き出しを開けっ放しにしておくことができるようになりました。

だからもし皆さんが私の部屋に遊びにいらした時は、——ご好意は本当にありがたいのですが、だらしない奴だなどつぶやきながら、さりげなく引き出しを閉めるのはやめて欲しいのです。

そうやって引き出しをびっしりと閉められてしまうと、中のものが恐ろしく取り出しにくくなってしまうので…。